


八幡西ケアセンター 和が家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「ご高齢者が地域でいつまでも和やかに安心して暮らせるために必要な社会福祉事業」を運営理念として掲げ、玄関ホール・フロアなどに掲示し、いつでも目に触れるようにしています。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		毎朝の申し送り時に運営理念、ももの基本方針を唱和し、勉強会・研修などでも話し合うことでスタッフ全員に浸透させ、実践しています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入居時・面会時、ケアプラン作成後の説明時、運営推進会議時など、ことある毎に話をすることで、理解して頂ける様に説明させて頂いています。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域の方々をお招きして催しごとをしたり、周辺地域への散歩時に気軽に挨拶させて頂き、会話する機会を多くもっています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		散歩時には気軽に声をかけてくださり、庭にある花や果実など分けて下さる方もおられます。最近では利用者様の身体機能の低下などにより、外出する機会が減っています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地元の方々をお招きして、運営推進会議や敬老会の開催、町内の運動会への参加など、交流をすすめています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		他施設や団体への訪問交流を進めていきたいと考えています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々にGHの存在を知って頂き、ボランティア交流や見学者への対応、相談窓口などでいつでも対応できるようにしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンス他、勉強会、朝のミーティングで随時、スタッフ間で話し合いをしています。また、運営推進会議でも議題として取り入れ、理解と改善に努めています。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、家族の方の出席を仰ぎ、報告・話し合いで多数の意見を頂き、我々のサービス向上に活かしています。またその内容は記録に残し、出席できなかった御家族様にもいつでも閲覧できるようにしています。		スタッフがいつでも閲覧できるようにし、内容を周知させ、実践できるようにしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いつでも相談しており、より良いサービスを提供できるように心がけています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフは勉強会等で学ぶ機会をもち、来所者にはいつでも目に触れるように玄関脇に掲示しています。隣のユニットに利用されている御入居者様がいて身近に感じています。		新人スタッフが増えたこともあり、学ぶ機会もなかなかないため勉強会を開き、古いスタッフと共に学んでいくことが必要と考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送りや毎月のカンファレンスで議題に取り上げ、話し合っています。また、ニュース・報道で得た知識など、皆で話し合う機会を持っています。		現在も取り組んでいますが、これからも議題にすることで、小さなことも見逃さないように努めています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>相談あった時から詳細に説明し、契約時は書面をもって一緒に読み上げながら説明し、その都度理解・納得を頂いています。</p>		<p>解約時にトラブルがないように、退居時にもう一度説明を行うようにしています。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を提示したり、毎月の介護サービス相談員の来所を受け入れ、御利用者様が心置きなく意見が出せるようにしています。また、ケアプランにも反映させています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には近況を報告したり、毎月の請求書の中には金銭の出納帳の写し・領収書とスタッフからの手紙などを同封し、必要があれば電話等で報告しています。</p>		<p>面会時や運営推進会議のときに、随時お知らせしています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市町村の相談窓口を契約書の中に掲載しており、ホーム玄関に提示しています。運営推進会議でも発言して頂き、記録に残して善処しています。</p>		<p>苦情報告があれば記録に残し、改善できる様に取り組んでいます。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝の申し送りや毎月のカンファレンスにて、皆の意見や提案を聞く機会を設けています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況変化や欠勤時など代わりの職員を確保し、サービスの低下に繋がらないよう勤務の調整に努めています。</p>		<p>必要に応じたスタッフの配置、ベテランスタッフばかりのシフトや新人ばかりのスタッフにならないように一層努めていきたい。また、状況変化が大きくなってきている中、柔軟な対応が難しくなっており、隣ユニットからの応援も行っている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的にユニット異動はありませんが、退職などにより人員の調整を行うため、異動することはあります。</p>		<p>状況変化が大きくなってきている中、柔軟な対応が難しくなっており、職員への負担もかなり多くなっている。介護者のストレス軽減に努め、退職者が出ないようにしていきたい。</p>

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	採用に際しては、性別・男女・年齢等を理由に対象外にするのではなく、幅広い年齢層・男女を採用しています。また、スタッフの思いや考えを取り入れ、相談しながら実行しています。		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	入社時の新人教育、人権教育、啓発活動に取り組んでいます。		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	段階的に自己評価チェックリストの作成を行っています。また、度々面談にて職員の意識の向上を図っています。外部(北九州市等の)での研修も順調に進んでいます。		全職員がスキルアップの為の研修をしっかりと受講し、全体のレベルアップに繋げていきたい。また、ゆとりのあるシフトを考え、研修の疲れが残らないようにしていきたい。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	近隣施設との交流で情報交換を行い、サービスの向上を図っています。		地域施設との交流機会がほとんどない為、交流の機会を確保することを課題としていきたい。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	定期的な親睦会、日々の会話の中で悩み・相談など話しあい、ストレス軽減を図っています。		疑問に思っていることやスタッフの表情を見て悩んでいる職員がいたら、いち早く気づき、思っていることを話してもらえる様に今後も取り組んでいきたい。また、個人面談も増やしていきたい。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の能力に合わせた役割分担、責任を持たせることで、向上心をもって業務に取り組める様にしています。		運営の一端を担っている自覚を持たせる為、個々にケアプランの担当を決め、家族への連絡等を行っています。また、主治医の往診対応や受診も担当し、御利用者の状態をしっかりとつかめる様にしています。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居に至るまでは本人様の生活している場に訪問し、安心して話せる環境の中で面談しています、		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にはいつでも施設見学をして頂き、困っていること、不安なこと等、相談にのっています。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番何を求めているか。又、何が必要かを見極め、GHの特性を説明し、本人のニーズに合うか、他を考えるとしたらどの様な方向か。納得するまで話し合っています。		ニーズに合った施設選びを家族と一緒にしています。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり契約するのではなく、体験入居をして頂き、徐々にホームに馴染んで頂ける様に、御本人様、御家族様と相談しながら行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を知ることで、職員が本人様を理解し、能力を押し量り、共に支えあって生活していける関係を築いています。楽しいと思えるものを知り、共に楽しく過ごしています。		

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	細めに面会して頂き、共に過ごす時間を多く持って頂くようにしています。又、敬老会などにも御家族様と一緒に参加して頂き、楽しく過ごせる様に配慮しています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活歴を尋ね、理解する事で職員が細めに御家族様と連絡をとり、本人様と御家族様がいつまでも密接な関係でいられる様に支援しています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来て頂ける様にし、外出・外泊もして頂いています。また、馴染みの場所へのドライブなども行っています。		様々な状況下、できるだけ馴染みの場所へのドライブも実施できる様に努めていきたい。ただ、最近は身体機能の低下等も見られ、外出の機会が減っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が中に入ることで、お互いのコミュニケーションを取りやすくしています。		御利用者様同士で楽しい場面を作り、会話で盛り上がる事がたくさんあります。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後も、継続的に関わりをもち続け、相談に応じていけることを説明しています。		入院の結果、その後退居になったとしても退院後の行き先の相談にのり、一緒に探したり、話し合ったりしています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様・御家族様より生活歴を聞き取り、思いや希望・生き方等を重視し、日々の暮らしの中からも思いを掘り出しています。		ケアプラン作成時には職員全員の意見交換を行い、それぞれに合った居心地のよいケアが行える様に取り組んでいます。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様・御家族様等により、情報を提供して頂き、情報シートとして残し、それを共有することで、全職員が把握できる様にしています。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	場面毎の状況を把握し、アセスメント表に残し、情報を共有しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には本人様・御家族様の希望・意向を聞き、主治医・栄養士等にも専門的立場としての意見を聞いてケアプランに反映しています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の変更時、入退院時での状況変化、ADLの変化に応じてプランを見直し、現状にあったプランを作成しています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌、健康日誌、経過記録、ミーティング、申し送りノート等、情報を記録に残し、共有できるようにしています。それらの情報をもとに介護計画の見直しに活かしています。		情報の伝達方法を確認しながら、漏れのないように今後も努めていきます。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各部署と連携し、柔軟な支援を行っています。		

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間スケジュールを作成し、定期的に消防訓練を行っています。ボランティア・民生委員と連携を取り合い、協力して支援しています。		敬老会ではボランティア・地域の方・民生委員も参加して行われています。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人様の意向や必要性があれば、いつでも支援していきます。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人様の意向や必要性に応じて協働しています。		包括支援センターの職員の方とは、運営推進会議を通じて相談したり、協働して頂いています。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切に、今までのかかりつけ医とも継続して情報交換し、適切にアドバイスや支援を行い、納得された受診支援を行っています。		緊急時における搬送先の希望・連携先など、細かく聞き取り、記録に残しています。専門医を受診するときには、御家族様・スタッフが同行し、きちんと対応するようにしています。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医とも常に相談できる関係を築き、速やかに診察・治療が受けられる様にしています。		専門医を受診するときには、御家族様・職員が同行し、説明を聞き、納得のいくまで話しあっています。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師、同一施設内に所属している看護師がおり、いつでも気軽に相談でき、アドバイスをもらっています。		看護師との連携はとっているものの、御利用者様の重度化や病院受診、処方薬の管理が煩雑になってきていますので、しっかりとした体制で間違いのない様に努めていきたい。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院を目指して、医療機関をはじめ、御家族様との情報交換もしっかりとれる様に努めています。		入院時には職員が付き添い、早期に情報を把握しています。又、早期退院に向け、随時、情報を得ています。相談窓口の活用も日頃から行っています。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化する御利用者様の今後について、かかりつけ医や御家族様との話し合いをもったり、運営推進会議の場で議題にあげて話しをしています。		御家族様とは早い段階から話し合いをもち、終末を迎える不安を取り除く様にしています。職員も話し合いに参加しています。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化することで、当事業所においては、どこまでできるのか。どこからができないかをよく説明し、検討準備を行っています。体調変化に合わせた対応ができる様に毎朝の申し送りや毎月のカンファレンスにて検討しています。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	重度化することで、適切な住み替え、場所、移り変わった後も気軽に相談できる様に話し合っています。		自分達だけで介護することは考えず、今までのケア関係者の情報をもとに、これからの支援に役立てています。
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保は入社時の研修、カンファレンス時に徹底して話をしています。		入社時には、個人情報漏洩についても十分話をしています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段より、思いや希望が表出できる様に、又、納得して生活できる様に支援しています。		本人様の思いを察知することで、少しでも納得して生活できる様に支援していきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、その人らしい生活ができる様に支援していきます。		外出・散歩・ドライブ等を含め、職員が業務優先にならないように努めています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様の望む様に支援しています。		馴染みの美容室に御家族様と行かれたり、施設内の美容室に本人様自ら予約をしたりしています。希望されるヘアスタイルを伝えたりしています。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御本人様の意見を尊重しながら、洗米や食器洗い・食器拭きを職員と一緒にして頂いています。		利用者様のできる事出来ないことを探し、やる気を促す様に支援しています。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前に嗜好を尋ね、本人様や御家族様の希望を確認し、支援しています。		好みに合わせてメニューを変更したり、季節に合ったメニュー選びをしています。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人様のできる限りの力を活かし、気持ちよく排泄できるように支援しています。		紙オムツや下剤に頼らない様に、職員同士、カンファレンスで話し合い、実行しています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は1対1の大切なコミュニケーションの場として、本人様のペースに合わせてゆとりのある入浴体制をとっています。		夕方より夜にかけては、職員の配置上、行っていません。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を尊重し、本人様のペースに合わせた休息・安眠への支援を行っています。		不眠のため、専門医より眠・安定剤を処方してもらっている場合もありますので、見守りをしっかり行っています。
その				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担など、本人様のできる事を見極め、喜ばれることを職員が試行錯誤しています。		食事作り、配膳、後片付け等、細めに役割分担し、職員と一緒に関わりながら、いつまでも続けていける様に支援していきます。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは理解していますが、お金の管理は全て事務所でしています。		財布は事務所で管理していますが、本人様が必要と思うときには事務所に取りに行き、買い物をしています。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所への散歩、私物の買物、ドライブ等、希望に沿って外出できる様に支援しています。		人員配置上の都合、また、天候によって希望に副えないときもあるが、花見や陸上競技場への運動に時々出かけています。身体機能の低下も見られますが、機会をもう少し増やしたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食・花見・運動会等、時には御家族様ぐるみで出かけられる際に支援しています。		外食できる御利用者様は少なくなっています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望されたり、相手からかかってくれば本人様が受話器をもって話されています。		電話や手紙は御家族の了解のもとで、いつでもできる様に支援しています
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来所できる様にしています。		夜間でなければ、御家族様の了解のもと、いつでもどなたでも来所して頂いています。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスでは必ず議題に取り上げ、話し合っていますし、運営推進会議でもその都度報告しています。		毎月のカンファレンスで必ず議題に取り上げ、話し合い、勉強して拘束のないケアを行っています。万が一、身体に危険が及ぶ場合は御家族様の了解を得ています。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロアの出入り口はいつでも開錠されています。		玄関は1階にあり目が行き届かない為、治安の関係上施錠し、出入り口はインターホンにより、2階で操作しています。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はいつでも所在や様子を把握できる様に位置しています。あくまでも監視にらない様にしています。		夜間は定期的に巡視を行っています。日勤においては、職員は必ず一人はフロアにいますようにしています。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入所時、在宅より持ってこられた生活習慣上必要な物は、なるべく側に置いてもらっています。		状態により危険となる物はさりげなく預かり、御家族様と相談の上、対処しています。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	介護力の向上。事故防止については研修・勉強会において、基礎知識を学んでいます。		万が一、事故、ひやりとする場面があれば報告書を作成し、再発防止策を練り、全職員がその内容を把握し、実施する様に努めています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルを作成し、研修の項目にもあげ、入退院状況の変化には御家族様に説明を行い、対応策を話し合っています。		緊急時マニュアル、応急処置マニュアル等を作成し、いつでも目にする事ができる様にしています。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行い、近所への働きかけをしています。非難口への誘導など身につけています。		地域の人には運営推進会議等で和が家の取り組みについて説明したり、協力を得られる様に働きかけをしています。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクマネジメントとして、研修の項目にもあげ、入退院状況の変化には御家族様に説明を行い、対応策を話し合っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、定期的な受診等により、体調変化や異常に気づく様に留意しています。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬者・確認者を決め、間違いのないようにしています。又、薬の情報書、受診記録を見ることで、薬の特性と御利用者様の症状との関連を理解し、把握することに努めています。		健康日誌、生活日誌、経過記録を残し、職員全員が情報を共有し、早期発見に努めています。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	栄養士・看護師による勉強会・小冊子などの提供で学び、実践しています。		下剤に頼るのではなく、適度な運動、水分補給。便秘予防となる食べ物の提供、腹部マッサージなど実践しています。

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じた口腔ケアを行っています。		出来る限り自力で歯磨きをして頂いていますが、できない方は介助しています。義歯は每晚洗浄剤につけ、衛生保持に努めています。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の記録を摂取するごとに記録することで、把握に努めています。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを作成しています。		感染予防マニュアルの熟読。カンファレンス等で看護師に説明してもらい、学んでいます。トイレ後、食事前の手洗いの励行。帰所時はうがい・手洗いを励行しています。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理。食材の管理に気をつけています。		台所清掃、調理器具の毎日の消毒。賞味期限のチェックを確実にしています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関脇に掲示板があり、温かみのある飾りにしています。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温もりのある生活空間作りに努めています。		

八幡西ケアセンター 和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全で心地よい環境作りに努めています。		テレビ周りにソファを置き、自由にくつろげる様にしています。ただ、安全の為(視力低下の方がいらっしゃいます)、配置はしていませんが、いつでも配置できるようにしています。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせる居室作りに努めています。		入居時、その後も本人様・御家族様の好みや慣れ親しんだ調度品をそろえ、在宅の延長線上にある環境作りをしています。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気・空調調節は細めに行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮したバリアフリーになっています。		各室個室になっており、身体機能にあったベッドの使用・調整を行っています。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	目印や名前を書いて、貼ることで場所が分かる様にしています。		トイレ・浴室等、貼り紙をしてあり、自分で行く事ができるようにしています。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランター・ベンチもあり日当たりもよく、いつでも出ることができます。		プランターの花を眺めたり、水遣りをしたり、洗濯物干しなど、活動の場になっています。

八幡西ケアセンター 和が家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

八幡西ケアセンター 和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

設立当初から掲げている「運営理念」やももユニットの基本方針を念頭に、御利用者様が安心して暮らせる様に、心地よい環境を作り、御家族様・地域の方々との交流も深まるように関わっていきたい。